

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 GIFT		
○保護者評価実施期間	2025年1月21日		2025年1月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29名	(回答者数) 25名
○従業者評価実施期間	2025年1月21日		2025年1月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月28日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別支援計画の充実	児童一人ひとりの発達状況や特性に応じた個別支援計画を作成し、適切な支援を提供することで、子どもの成長を最大限に促していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者面談を増やし、家庭での困りごとや希望を細かく聞き取り、支援計画に反映する。 ・子ども自身の意思を尊重し、できる限り子ども本人の興味・関心を尊重し、楽しく取り組める活動を支援計画に組み込み込んでいく。
2	多様なプログラムの提供	感覚、音楽、運動、言語など、多岐にわたるプログラムを通じて、子どもが楽しみながら成長できる環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で取り組める遊びや学習方法を保護者にお伝えし、継続的に支援を実施出来るように取り組んでいく。 ・保護者が子どもの発達をサポートするスキルを学べる講座を開催出来るように取り組んでいく。 ・子どもが自宅でも学びを継続できるよう、家庭での過ごし
3	安全で安心な環境 自宅、園への送迎サービス	療育施設の設備や安全対策が整っており、子どもが安心して過ごせる環境が提供されている。 送迎のサービスがある事で保護者様の負担を軽減する。	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての子どもが安心して利用できるように施設の改善を行う。 ・屋外活動の推進自然の中での遊びや体験学習を取り入れ、社会性や運動能力の向上を図る。 ・安全運転で安心して通えるようにする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との連携が出来ていなかった	保育所、幼稚園、学校、福祉機関等と関係が構築されていなかった。 今後は子どもが社会にスムーズに適應できるような支援体制を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域・関係機関との連携強化する。保育園・幼稚園・学校との情報共有や児童の発達状況を共有し、一貫した支援ができる体制を構築していく。 ・必要に応じて医師や心理士と連携し、より適切な療育を実施出来るように取り組んでいく。
2	保護者交流の機会がなかった	保護者向けの交流会や、講習会等の機会を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が子どもの発達や療育を学べる機会を増やす。 ・保護者が適切な支援スキルを身につけられるよう、定期的な研修を開催出来るように取り組んでいく。 ・家庭で取り組める療育プログラムや遊びのアイデアを提供する。 ・保護者様同士の交流の場を設ける。
3	専門スタッフとの連携が少なかった	外部からの言語聴覚士、作業療法士、臨床心理士などの専門職と連携して、子どもに最適な療育を行えるように取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> スタッフの継続的な研修 ・療育方法や発達支援の知見を学ぶ研修に参加し、職員のスキルアップを図る機会を設ける。